

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立思斉小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○ 「学び」の成果については、小中一貫における指導力向上をめざし、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。プログラミング教育についての授業研究会では、算数科におけるICT機器を活用した授業実践が提案された。新学習指導要領全面実施に向けた評価の観点について、職員研修を通じて共通理解を深めた。他方、家庭学習の定着については、強化週間においてこそ成果があったが、日常的・主体的な学びの定着においてはなお課題が残る。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的方策について見直し、実践に取り組む。</p> <p>○ 「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議、保護者相談会を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。次年度は年間を見通した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心に、学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事案への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にして解消に向けて取り組んできた。また、Q-uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。</p> <p>○ 「誇り」の成果については、地域人材を活用した授業実践や体験活動を通して、地域を愛し郷土に誇りをもつ児童の育成に取り組むことができた。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加、市総合防災訓練への参加など、地域との連携を深めることができた。次年度は、円滑な地域とのコーディネートに係る体制づくりに取り組む。</p> <p>○ 学校運営に係る業務改善については、会議の縮減、週時程の見直しにより、前年度より放課後の時間確保を実現した。来年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p>

2 学校教育目標	『見賢思斉』の精神で たくましく未来を切り拓く児童の育成 ～小中一貫教育の推進を通して～
----------	-------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 目標や夢の実現に向けて努力する児童</p> <p>② 学ぶ意欲をもち、自ら考え行動する児童</p> <p>③ 自他のよさを理解し、よりよい人間関係を築く児童</p> <p>④ 心身の発達について理解し、健康な心身をつくろうとする児童</p> <p>⑤ 郷土に誇りをもち、郷土の文化や伝統を大切にしている児童</p>
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
●学力の向上	○「楽しい授業づくり」の推進	○「学校での勉強が楽しみだ」と回答する児童を80%以上にする。 ○「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答する児童を80%以上にする。	・「自ら問いを立て、学びを活かす」授業についての研究を進め、授業研究会において全職員の共通理解を図る。 ・児童が意欲的・継続的に取り組める家庭学習の在り方について見直しを図る。	A	・1学期に研究授業を行い、研究の方向性について共通理解を図った。また2学期には、研究発表会を実施し、「自ら問いを立てる」授業についての研究を深めることができた。 ・校内研修において、各学年部で宿題の出し方及び内容について検討を行った。低学年では、自分の興味あるプリントに取り組みせたり、中高学年では自主学習ノートを活用したりと、主体的に学ぶ手立てを考えることができた。	A	・全体での研究授業を2本、研究発表会で2本の授業を公開し、「自ら問いを立てる」授業についての研究を深めることができた。 ・12月実施のアンケートでは、「学校での勉強が楽しみだ」という児童が84%という結果で、先生方の教材研究が学びの意欲を高めていることがうかがえる。 ・「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答する児童は、82%おり、コロナ禍の中でも児童間の交流を意識して授業を行うことができた。
	○特別支援教育の充実	○個に応じた支援に係る取組(共通理解、保護者対応、職員研修)ができていると回答した教員を80%以上にする。	・夏季休業中の小中合同研修会の時期や内容、講師招聘について、4月中旬に検討し教育センターや他の関係機関にお願いをし、より良い研修会にする。 ・支援の必要な児童に対しての対応の仕方を全職員で共通理解をし、学級担任だけの負担にならないように工夫する。	A	・夏季休業中に小中合同で講師を招聘し、研修会を計画通り実施することができた。 ・生活指導員や支援学級支援員の支援の記録を対象児童学級担任や管理職が目を通し、支援方法を共有することができた。 ・校内支援会議を必要に応じて開催し、担任だけの負担とならないように、児童の実態や支援の方法を共有することができた。	B	・特別支援教育に対する考え方の隔たりが職員間にあり、個に応じた支援に関するアンケート結果が60%(昨年度94%)にも届かなかった。アンケート項目の主語が不明確であり、評価対象がはっきりしなかったことも影響していると考えられる。 ・個に応じた指導を行うために、研修会においてその子をどう見るかの視点についての研修は深められた。今後は、その子を集団の中でどうとらえるのかというインクルーシブ教育の視点を広めていく必要がある。
	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上にする。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ・具体的な取り組みは以下①から③に示す。 ①授業の復習をしたり、「計算・音読カード」をくり返し行ったりして、基礎基本の定着を図る。②家庭学習の充実を図るために、自主学習の仕方や手引きを配布し、自主的な学習につなげる。③児童自身の「問い」を持たせたり、「ふり返し」を書かせたりして、自分の考えを書いたり説明したりする活動を意図的に取り入れた学習を行うことで、文章での表現に慣れさせる。	B	・学力向上対策シート(マイプラン)の活用が不十分である。職員一人一人が意識できるように積極的に呼びかけ、活用していく必要がある。 ・具体的な取り組みについては以下の通りである。 ①「計算・音読カード」だけではなく、学級の実態等に応じた内容を工夫して基礎基本の定着を進めることができた。②家庭学習の充実を目指し、学年に応じた内容や課題の出し方の工夫することができた。③「問い」を立たせる授業を仕組んだり、授業の「ふりかえり」を書かせたりして自分の考えを書くことに少しずつ慣れさせることができた。	B	・学力向上対策シート(マイプラン)の成果指標を達成した職員が60%に留まり目標達成に至らなかった。シートの活用、マイプランの意識付けを高める手立てに課題が残った。 ・授業時間に基礎基本の定着を図るための取組をした。12月の佐賀県学力状況調査の結果を見ると、平均正答率で全ての学年、教科で1を下回っており、さらに全校での取組を強化していく必要がある。 ・家庭学習での取組を継続して行った。3年生から6年生までの学習アンケートを見ると、平均66%の児童が自主学習ができていると回答しており、少しずつ定着してきた。 ・授業や日記など、「書く」ことを取り入れ、児童の抵抗を減らしてきた。児童の育むべき資質・能力を意識して授業改善に取り組んでいる教師が100%であったことから、教師の意識も高まったと言える。
◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する志を高める教育活動の推進	○「勉強は夢や目標の実現に役立つと思う」児童を70%以上にする。	・Q-U、NRTの分析を取り入れ、PDCAサイクルを踏まえた児童理解・学力向上の取り組みを実践する。 ・開発的生徒指導の理念による実践を行い、児童に番・役割を与え、承認する指導に努める。 ・キャリアパスポートを活用し、児童一人ひとりが将来や自分の生き方についての目標をもち、成長を振り返ることができるようになる。	A	・夏季休業中に、教育センターより講師を招聘し、全職員でQ-Uの見方や利活用に係る研修を行った。2学期以降の学級経営や人間関係づくりについて各学級や学年ごとに話し合い手立てを考え共有する場を持ち、実践に生かすことができた。 ・開発的生徒指導の視点で、学校行事や委員会活動等で役割を与え、称賛することで、自己有用感を高めることができた。 ・各学年ごとにキャリアパスポートを作成し、自己の成長について振り返る場をもつことができた。	A	・アンケート結果では、「勉強は夢や目標の実現に役立つと思う」児童が9割であり、目標を達成することができた。 ・2回目のQ-Uの結果をもとに、2学期までの取り組みについてふり返し、3学期の学級経営や人間関係づくりについて生かすことができた。 ・各学年ごとのキャリアパスポートのシートや活用の仕方について教職員間で共有することができ、次年度への取り組みにつなげることができた。 ・各学年ごとにキャリアパスポートを作成し、自己の成長について振り返る場をもつことができた。 ・学級や学校行事、委員会活動等で児童主体の活動の場が増え、開発的生徒指導の考えが浸透してきている。	

<p>●心の教育</p>	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p>	<p>○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童を80%以上にする。 ○「安心して学校生活を送っている」と感じる児童を90%以上にする。</p>	<p>・人権集会やお話タイムを実践し、自他の生命を尊重する心や他者への思いやりの心の育成を図り、学校全体に支持的風土を醸成する。 ・授業参観で、ふれあい道徳授業を実践したり、互いの授業を見合う交流をしたりすることで、道徳の授業の充実を図る。 ・保護者や地域の方と連携した○○体験の実施を促す。</p>	<p>A</p>	<p>・1学期の人権集会は各教室でのプレゼンテーションと放送で行い、個性尊重と特別支援学級の理解を図る内容で実施した。お話タイムは計画通り進めている。 ・平和教育では、6年生の総合的な学習と連携して、発表会や縦割班で折り鶴作りをした。 ・授業の実践事例集などを利用して授業の充実を図っている。 ・各学年で生活科、総合的な学習の時間で地域の方と体験活動を実施することができた。</p>	<p>A</p>	<p>・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童は95%だった。 ・「安心して学校生活を送っている」と感じる児童は88%だった。 ・人権集会等は計画通り実施できたが、コロナ対応で方法や内容を変更して実施した。また、地域での体験活動も実施することができたが、同様に方法を変更して実施した。次年度はよりコロナ対応を考えてより効果的な方法を考えていく必要がある。</p>
<p>●健康・体づくり</p>	<p>●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成</p>	<p>○「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上にする。</p>	<p>・「早寝早起き朝ごはん週間」の実施を通して基本的な生活習慣の定着を図る。 ・自分の健康を維持するために、各学年の応じた栄養指導を行い、食事の大切さを学ばせる。 ・親子給食や給食運営委員会・献立委員会を行い保護者へ給食への理解を図る。</p>	<p>A</p>	<p>・「早寝早起き朝ごはん週間」を6月に行い、児童と家庭への啓発を行った。取組を行う中で、朝ごはんの大切さや家庭と協力して取り組みを行う姿が見られた。朝ごはんを食べたことで、一日のスタートがスムーズにできたなど良い結果が見られた。 ・保護者、薬剤師、管理職、学校栄養職員を交え、給食献立委員会を行い、給食への理解を図った。</p>	<p>A</p>	<p>・「食事は健康にとって大切である」と考える児童は、児童アンケートで97%であり、目標の90%を7%ほど上回った。 ・「早寝早起き朝ごはん週間」を6月と11月に行い、児童と保護者へ朝ごはんの大切さの啓発を行った。 6月より11月の方が達成率が上回り、取り組みの効果があつた。 ・毎月の「給食だより」で食に関する啓発を行った。</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p>	<p>・各教職員の業務記録状況をもとに個人目標を設定する。 ・定時退勤日を設定する。 ・学校閉庁日を設定する。</p>	<p>A</p>	<p>・時間外業務が月45時間、年360時間を超えないことについて連絡会を通じて周知を図った。 ・4月～10月までの職場全体の勤務状況について統計をとりグラフ化して全体で共有した。 ・今後、年休の取得促進、日常業務縮減に係る見直しについて取組を進めていく。</p>	<p>A</p>	<p>・長期休業中の会議・研修・作業等の日程を調整して、年次休暇取得推進週間を設定することにより、職員の健康の維持・増進を図ることができた。 ・年次休暇取得状況の全体平均と個人の結果、時間外在校時間等の月ごとの状況をそれぞれグラフ化して配布した。9割の職員が効率的な業務への意識変容ができたと回答し、法で定められた上限を遵守していると回答した職員の割合は76%であった。</p>

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果
<p>◎郷土学習「思斉学」の積極的な取組及び交流・体験活動の充実</p>	<p>○郷土に誇りをもち、小・中交流や地域との連携を通してよりよい社会を築こうとする児童の育成</p>	<p>○「久保田町に誇れるところがある」と回答する児童を90%以上にする。 ○「小中合同の交流・体験活動は楽しい」と回答する児童を80%以上にする。</p>	<p>・キャリア教育の視点による「思斉学」の改善と充実を図る。 ・土曜授業日の朝の時間を「思斉学タイム」として活用する。 ・小中合同での交流や体験活動を計画的に設定する。</p>	<p>A</p>	<p>・「思斉学タイム」の中で、各学年で久保田町のよさや久保田町を支える人々について学ぶ機会をもつことができた。 ・小中合同ボランティアを通して、児童に地域への奉仕の心を養ったり、学年を超えた交流のよさに気付かせたりすることができた。 ・「思斉学検定」に向けた学習を通して、校訓「見賢思斉」の精神について自分の考えをもち、学校生活に対する自分の態度や頑張りを見つめ直す機会をもつことができた。 ・3年・5年で実施していた「ふるさと学習」が未定。コロナ禍で地域との交流の計画が立てづらい。</p>	<p>A</p>	<p>・「思斉学タイム」では、各学年の発達段階に応じた活動を通して、久保田町のよさについて知見を深めさせることができた。 ・4年生「思斉学検定」の学習では、校訓「見賢思斉」の精神に基づいて自分の行動を振り返ったり、これまで支えてくれた家族や地域の方への感謝の思いを伝えたりする機会となった。</p>

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

<p>5 総合評価・次年度への展望</p>	<p>○「学び」の成果については、小中連携学力向上地域指定事業一年目として、各教科の授業における指導力向上をめざし、「問い」を重視した単元指導計画や授業展開について研究を深めた。小3年国語、小6年体育の授業実践が提案された。家庭学習の定着については、強化週間においてこそ成果があつたが、日常的・主体的な学びの定着においてはなお課題が残る。学習状況調査結果からは、読解力・思考力・表現力の向上について引き続き、授業改善を図る必要があるため、今後もPDCAサイクルに基づき、学力向上に係る具体的方策について見直し、実践に取り組む。 ○「育ち」の成果については、特別支援教育に係る個別の支援会議を定期・臨時に開催し、適切な支援や校内体制について都度、改善を図ってきた。次年度は年間を見通した支援体制について、年度当初に特別支援チームと交流学級との連絡を中心に、学校全体でよりきめ細かな支援体制づくりに取り組む。いじめ防止に係る調査や認知事案への対応については、学級担任や生徒指導担当を中心に、報告・連絡・相談を密にして解消に向けて取り組んできた。年間16件の認知報告を行った。Q-uテストの結果を生かし、開発的生徒指導の観点から児童一人一人に役割を与え、集団生活への満足度を向上させることができた。 ○「誇り」の成果については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、地域人材を活用した授業実践や体験活動に十分取り組むことができなかった。また、読み語りボランティアの活用、地域の祭りへの参加など、地域との連携の機会も自粛・中止により減少した。小4年で毎年行っている「思斉学検定面接」については実施できた。次年度は、地域人材リストを更新し、コロナ禍においても可能な範囲で地域とのコーディネートに係る体制づくりに取り組む。 ○学校運営に係る業務改善については、自発的勤務時間の上限45時間を平均では下回つたが、個別には超過する職員が毎月4～5名程度いる。来年度は適正な勤務時間の管理に加え、仕事の質の向上を図るため、業務内容について定期的な点検・改善を行い、働きがいのある職場づくりに取り組む。</p>
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------